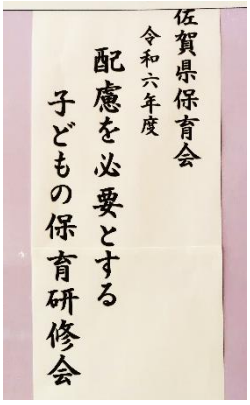
「令和６年度　配慮を必要とする子どもの保育研修会」報告書
～保護者対応・保護者支援～



【期　　日】　令和６年１０月２４日（木）
【会　　場】　佐賀県社会福祉会館　２階　大研修室
【主　　催】　佐賀県保育会
【参加者数】　１０７名　（集合　４７名　　オンライン　６０名）
【内　　容】　研修１　１２：３０～１６：３０
「子どもに寄りそう　保護者に寄りそう」
講師　日野 久美子 氏
（西九州大学 子ども学部子ども学科　特任教授）

★寄り添う　➔　ペースを合わせること（成長の速さ・感覚・環境・・・）
発達障害のある子どもを育てる保護者に寄り添うために
１・「子どもに寄り添う」とは
〇発達障害の特性について知りましょう
〇特性を理解したかかわりについて考えましょう
２・「保護者に寄り添う」とは
〇子どもの支援チームの一員として関わりましょう
発達障害について　（それぞれの特性を知る）
LD　（学習上の問題）
・全般的な知的発達に問題はない
・能力の偏り
・「聞く、話す、読む、計算する、推論する」の特定の物の習得・使用に著しい困難を示す。
・神経系の機能障害の推定

ＡＤ／ＨＤ　（行動の問題）

＊場面状況や相手によりこれらの程度は変わる

・注意力障害：集中できない、気が散りやすい、うっかりミス

・多動性：多動、離席、多弁、「落ち着かない」気分

・衝動性：ちょっと待ってが苦手

ＡＳＤ　（コニュニケーション上の問題）

自閉症スペクトラム（知的レベルは広範囲にわたる）

・社会的関係性の形成困難：呼名に無反応、一人遊び、マイペース

・言葉の発達の遅れ：言語遅滞、ひとりごと、冗談がわからない

・特定の物へのこだわり：同じもの、事象、やり方へ固執変化に弱い

＊感覚刺激に対する過敏さ／鈍感さ

通常学級に在籍する特別の支援を必要とする子どもたちの割合増えっていることから

〇見逃されていた子どもたちに目を向けるようになった

〇子どもたちの生活習慣や取り巻く環境の変化　　・・・社会的障壁が増えた

・言葉や文字に触れる機会が減少➡テレビゲーム・新聞を読む

・インターネットやスマートフォンが身近になった➡対面での会話、体験活動

事例の中からこうすればうまくいくことに着目する。

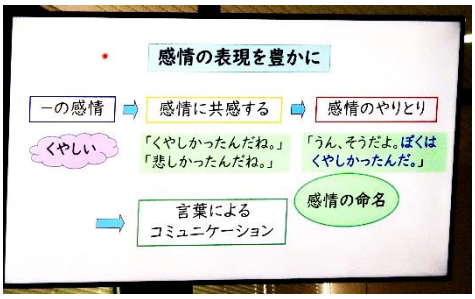
・たくさんの引き出しを持つ

・好きなことをきっかけにする

・多角的な見方から良い方法を見つける。

・乳幼児期の経験こそが就学後の学習への問題に関わってくる

➡（安心感・満足感・自主性・主体性など）



感情の表現が未熟である

一の感情	➡	怒られる	➡	おさえる	➡	二次障害
（くやしい）		「怒ったらだめ」		「満たされない思い」		・爆発する
		「泣いたらだめ」		だけが、積み重なる。		・切れる
						・反応しなくなる

＊子どもの心が揺れ動くときに、子どもが使えなくても「感情を表す言葉」をかけて教えてほしい！！

コニュニケーションの発達には、順序がある

対：母親　➡　対：大人　➡対：友だち　　➡　　対：異性

＊自立への過程であり、一段ずつ上っていく階段

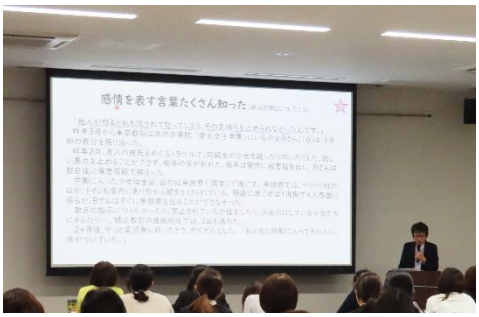
＊登る速さや登り方にその子なりのペースや個人差（特性）がある　（飛び越しはできない）

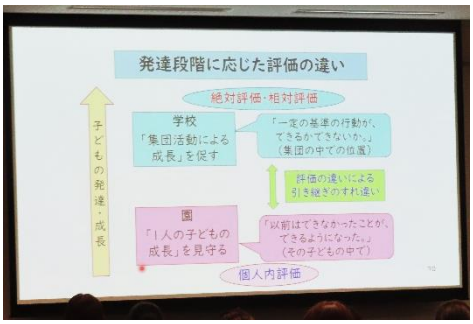
その子どもの成長に付き合う➡その子どものペースを大切にする　・・・・寄り添う

「大人の言うことを聞かない子ども」なのか、「子どもが分かるように伝えられない大人」なのか。

＊子どもが分かるような伝え方をしているか

＊分かりやすい表現・言葉で伝える





子ども同士の理解にとって最も効果的な指導は、周りの大人・友だちのモデル（言動・行動）

まわりの子どもたちへの対応でも当人を主役にして伝えることを心がける

・困っている子どもはだれか

・どの子どもも困っているときはある

・困っている子に向き合いましょう

保護者への伝え方

何を伝えるか

・子どもが困っていること

・つまずき

・他の子どもとの違い

それよりもこちらが大切 ➡

伝え合うか

・どのような場面で困っているか

・どの様にすれば、困らずに過ごせたか

・その子自身の成長を示す

何のために伝えるのか？

保護者と支援者が同じ思いの元に子どもを育てる・支援する

➡子どもがよりよい生活を送れるように支えたい

保護者にも受け入れられる時期がある

【園の先生方に伝えたいこと】
〇幼児期における診断の捉え方
子どもの成功体験を増やすために。子どもの失敗体験を減らすために
特性（診断）を生かす。と考えよう！

〇共に過ごしている喜びを大切に
園の時代にしか楽しめないことはたくさんあります

〇子どもが笑顔になれるかかわりを
子どもが笑顔になれる声掛けやかかわりがあれば、大丈夫

〇親の最も身近な相談相手に
親の良い相談相手になれるように、正しい知識を増やし、親の状況を想像しながら話を聞きましょう

ことばかけの見直し
か・・・感情的になっていないか
き・・・傷つけることを言っていないか
く・・・くどくど言っていないか
け・・・（こどもを）敬遠していないか
こ・・・（自分の考えに）こだわりすぎていないか

【感想】
幼児期での経験（成功体験）の積み重ねが社会で自立することにつながっていく。
園・学校・家庭は、失敗や間違いが許される場所であり、失敗や間違いから学ぶところである。そのために発達障害についての知識を高め、特性を十分理解したうえで、人とのかかわりを大切にしていくことを学んだ。言葉ではなくとも思いや気持ちを受け取ろう・受け止めよう・読み取ろう・わかろうとする姿勢を忘れずに今しかできない経験を心地よいものとなるように方法を見出していきたい。

（文責：　かわのぼり保育園　　古賀　麻子）